

# 広告

# いしかり産



## ■いしかり地産地消フェスタ2012～地産地消シンポジウム

詳細は  
24ページ  
参照!

日程 2月18日(土)13:00～16:00

場所 りんくる

主催 いしかり地産地消フェスタ実行委員会 共催 石狩産小麦普及推進協議会

※3月24日(土)、同フェスタの第2弾としてJAいしかり地物市場 とれのさと(樽川120-3)で

「地産地消味本市」を開催します。詳細は3月号でお知らせします。お楽しみに!

「いしかり地産地消フェスタ」が、今年は「石狩産小麦」をテーマに開催されます。農林水産省が選定する「地産地消の仕事人」による講演や、地元の生産者や事業者、消費者によるパネルディスカッション、さらには石狩産小麦を使った商品の試食会が行われる予定です。

ところで、その石狩産小麦を皆さんは味わったことがありますか?

石狩では作付面積も867haと着実に増えており、収穫量も平年で約3,000tあります。「ここ3年ほどの間に秋小麦がホクシンからきたほなみに切り替わって、より一層の収穫量増加を目指しています」とは、JAいしかり麦作部会で会長を務める佐々繁夫さん。

## 「いしかり地産地消フェスタ」で石狩産小麦を考える

ただ小麦は、米と違って国内供給量が需要にまったく追いついていないのが現状です。例えば、パン作りに適した「春よ恋」(春小麦)も石狩産を地元で確保するのは非常に難しい状況で、きたほなみに至ってはほとんど市外に流出。わずかな量が学校給食用になる程度で、あとは北海道産というくくりで全国に流通しています。

しかし、昨年産の石狩産小麦から、製粉会社や流通事業者の協力により、市内(「JAいしかり地物市場とれのさと」など)で、手軽に買うことができるようになりました。これを機会にパンやパスタにしてもおいしい石狩産小麦の魅力と活用について一緒に「いしかり地産地消フェスタ」で考えてみませんか?

## スマートグリッドへの道

石狩湾新港地域から発信された幾つかのプロジェクトは、これからの北海道を牽引する可能性を秘めている。環境、エネルギー、情報、バイオなど今日のテーマにチャレンジする企業の進出が見込まれ、一部始動した事業もある。中でも注目すべきは環境と情報を組み合わせ、国際モデルとなり得る環境対応・郊外型データセンターの稼働だ。さらに集積を図ることにより、相乗的にソフト部門の立地も進むなど、北海道の新分野を構築するグローバルプロジェクトに育つ可能性は大きい。

◆昨年コンテナ貨物は30%近くの伸びを見せ、港も活気づき始めている中、液化天然ガス(LNG)輸入基地の整備も順調に進み、今秋の入港に向けて着々と準備に入っている。さらに、燃焼エネルギーとして供給するだけでなく、火力発電の計画が具体化したほか、マイナス162度の冷熱利用や成分抽出による起業なども期待される。

◆もう一つは洋上風力発電やバイオ発電の可能性だ。今日エネルギー計画の見直しは国民的要請となり、官民一体で検討が進められている。再生可能エネルギーへのシフトは、企業にとってもビジネスチャンスであり、急激に技術革新へと邁進している。新港でのプロジェクトは多様なエネルギーソースを生み出し、同時に情報通信技術(ICT)を活用した節電モデルとして、域内スマートグリッド(次世代送電網)の導入をも可能とする。この動きを市民と共有してこそ一層価値があり、環境都市への道を共に歩むことになる。と考える。(市長)